

【実践報告】

「教育実習Ⅴ・Ⅵ（中・高）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 猪 川 優 子

1 はじめに

「教育実習Ⅴ・Ⅵ」は中学校・高等学校の学校現場において実際に教育実習生として授業や校務などを行う、いわゆる本実習である。この実習では約3週間にわたって実習校で指導を受けながら、授業参観や授業実施、学級指導などを通して教育者としての実践力を磨いていく。大学で学修した知識や技術を生かしながら、教員としての資質や適性を確認するのも目的のひとつである。

実習に至るまでに、教育法や観察実習などの科目を修得し、教育実習生にふさわしい資質を身に付ける必要がある。また、実習先とのやりとりや各書類の作成、ガイダンス等を通して、社会常識やコンプライアンス等に対する意識を高めていくことも重要である。心身ともに安定した状態を保ちつつ、一人ひとりが充実した実習としていくこととなる。

2 実習の概要

実習校によって実習の様相は異なるが、おおよそ次のような内容を含む。

○本学でのガイダンス（2時間）

○実習校での実習

1. 実習校でのオリエンテーション（2時間）
2. 授業参観（78時間）
3. 教材研究（20時間）
4. 授業担当（20時間　うち研究授業1時間）
5. その他の業務

○本学での教育実習報告会（2時間）

3 本年度の実習先

(1) 国語教育コース：14名

- ・中学校……10名（広島県、岡山県、山口県、島根県、愛媛県、沖縄県）
- ・高等学校……3名（広島県、山口県）
- ・中高一貫校……1名（広島県）

(2) 英語教育コース：11名

- ・中学校……10名（広島県、山口県、島根県、愛媛県、香川県、沖縄県）
- ・中高一貫校……1名（広島県）

4 教育実習報告会の実施

11月15日（金）に国語教育コース・英語教育コースに分かれて実施した。実習生各自が報告会資料の中で観点別にまとめたものをもとに、実習生が役割分担をして会を執り行った。報告会における協議事項は以下のとおりである。

1. 授業観察で学んだこと

- ①授業の内容や構成
- ②発問・説明・指示
- ③板書・教具
- ④ICT活用

2. 授業実践で工夫したこと

- ①分かりやすく伝える工夫
- ②生徒の考えを深める工夫
- ③対話的な取組の工夫
- ④ICT活用の工夫

3. 授業実践で難しかったこと

4. 生徒との関わり方について

報告会では小人数のグループに分かれて項目ごとに情報交換をする時間を設けた。その後、意見を取りまとめて各グループでスライドを作成し、全体発表を行った。下の学年の参加もあり、交流をしながら充実した報告会が実施できた。

5 実習観察記録より

- ・ 実習前は授業ができるのか、どんな生徒がいるのか楽しみと不安が絡んだような感覚だったが、今振り返るととても有意義で、生徒たちも活力があって、教師という仕事はやりがい満ちているなと実感することができた。責任感を持って実習期間を過ごせたことがこの結果につながっていると思う。
- ・ 3週間という短い期間であったが、たくさんの学びを得た。学校現場というのは慌ただしく、1日がすぐに終わってしまう印象だった。教育実習生ということもあり現場の先生方よりかなり業務は少なかったが、空きコマがすぐに終わってしまうように感じた。授業の準備に関しても、パワーポイントやワークシートの活用は便利だが、慣れないうちは教材研究や授業準備に時間がかかってしまうため大変に感じた。1日の中で生徒と関わる時間が限られているため、コミュニケーションをとる機会を大事にしていきたいと感じた。
- ・ 初めての学校現場で、等身大の中学生に授業をしたことで今後に活かせる授業術を学ぶことができた非常に有意義な3週間であったと感じた。初めてのことばかりでうまくいかなかったことの方が多いが、失敗経験を踏み台として次に活かすことができた時は、1回で成功するより何倍もの達成感を味わうことができた。